

新型コロナウイルス感染拡大リスクを低減する「新しい生活様式」

鍵盤ハーモニカ演奏上の注意

演奏の環境

三密を避け、ソーシャルディスタンスを保ち、換気にご配慮する。

演奏の前後には

手洗い・うがいを必ず行う。また、アルコール等で手指の消毒を行った際には、しっかりと乾かしてから鍵盤ハーモニカに触れる。



演奏時の注意

鍵盤ハーモニカはゆっくりとした優しい息づかいで演奏する。唄口（マウスピース）と唇の間から、飛沫が出る可能性があるため、適切な息・優しい息で演奏させるように指導する。

演奏後には

お手入れには清潔なハンカチをご使用する。また、唄口や鍵盤ハーモニカ内部の水分を抜く時は、水分の出口をハンカチ等で覆うなどの指導をする。



通常のお手入れ（鍵盤ハーモニカ）

通常のお手入れは、鍵盤ハーモニカの取扱説明書の指示に従って行ってください。

特に汚れが気になる時の

お手入れについて

<本体・ケース>

通常のお手入れをした後、市販の**アルコール成分を含まない除菌ウェットティッシュ**等で拭き、水分が残らないようしっかりと乾かす。



<唄口（マウスピース）>

唄口は、短いもの（立奏唄口）と長いもの（卓奏唄口）どちらも食器用洗剤で洗うことが可能。

洗ったあとは、洗剤が残らないようしっかりと水ですすぎ、直射日光の当たらない風通しの良い場所で、中までしっかりと乾かす。

お湯は製品が変形する恐れがあるので絶対に使用しない。



新型コロナウイルス感染拡大リスクを低減する「新しい生活様式」

リコーダー演奏上の注意

用意する物

- ①リコーダー
 - ②マスク
 - ③清潔なガーゼまたは薄いハンカチ（水抜きやお手入れに使用）
 - ④ ③を使用した後は、持ち帰るようにする。
 - ⑤ティッシュ（床などについた水滴を拭く）
- ※リコーダーの手入れ時には使用しない。

リコーダーを演奏する前に

- ・ 手洗い，うがいをし，ソーシャルディスタンスを徹底する。
（人と人との距離を1～2m空ける）
- ・ リコーダーを口につけていないときは，マスクを着用させる。

リコーダーを演奏する時は

- ・ こまめに休憩を取り，部屋の換気や水分補給を行う。
- ※演奏時は通常より呼吸動作が多くなり喉が乾燥しやすいため，休憩時は必ず水分補給をさせるようにする。

基本の指導ポイント

- ・ リコーダーを口の中に入れすぎると，口腔内が広がり，リコーダーの中に唾液が流れやすくなるため，口に浅くつけて演奏させる。
- ・ リコーダーを演奏する時は，口とリコーダーに隙間ができないように構えるよう指導する。（特に口の両端は隙間ができやすく，飛沫が飛ぶ恐れがある。）
- ・ リコーダーを振り回したりせず，大切に扱うことを児童に伝える。水滴が周囲に飛ぶのを防ぐと同時に，楽器を長持ちさせることにつながる。

リコーダーのお手入れマニュアル

頭部管

[準備物] 掃除棒・布 ※ 布は薄手で吸水性のある物を使用する。

1. 布で頭部管をふく。
2. 布をリコーダーの頭部管の窓に当てる。
3. リコーダーに息を吹き込み、中に残った水滴をとりのぞく。

感染症予防のため、窓を手で直接おさえずに必ず布を当てて息を吹き込む。



4. 掃除棒に布をつけて、頭部管と中部管の中に残った水滴をふきとってからケースにしまう。
お手入れの後、布はビニール袋などに入れて持ち帰らせる。
手は石けんなどできれいにする。



リコーダーの洗い方

[準備物] 洗面器などの容器・中性洗剤・掃除棒・布・タオル

※ 洗剤は中性を、布は薄手で吸水性のある物を使用する。

1. 容器に水またはぬるま湯と中性洗剤
(1ℓあたり5～10cc)を入れる。

楽器が変形するため、熱湯は絶対に使用しない。

2. リコーダーを容器に入れて
30～40分程度、つけ置き洗いする。

3. 容器からリコーダーを出して
水でしっかりと洗い流し、外側についた
水滴をタオルでふきとる。

4. 掃除棒に布をつけて
頭部管と中部管の中の水滴をとる。

5. リコーダーをタオルの上で十分に
自然乾燥させ、ケースにしまう。



☆歌唱指導は、屋外でソーシャルディスタンス（1.5 m～2 m）をとるなら、マスク無しで歌唱は可能。屋内では、マスクをして距離に適した音量で歌う。